情報アラカルト

串間で行われるイベントや
まちの話題まで、見逃せない
情報が満載です。

TOPIC

障がい者雇用に関する研修会を実施しました

6月25日、串間商工会議所の通常議員総会で串間市障がい者自立支援協議会のくらし就労部会メンバーが「障がい者雇用に関する研修会」を行いました。約50名が参加し、障がい者の法定雇用率の引き上げについてや就労訓練施設での障がい者支援の状況などを説明しました。

TOPIC

串間温泉いこいの里 8月の休館日変更のお知らせ

8月の休館日を以下のとおり変更いたしますのでお盆もご利用いただけます。また、15日は「いこいの日」で半額です。たくさんのご利用をお待ちしております。

●休館日　8月29日(水)（15日は通常営業）
※9月以降は、通常の第3水曜日が休館日

●問い合わせ先　串間温泉いこいの里
☎75-2000

EVENT

第52回都井岬火まつり

高さ30mの柱松の頂上を大蛇の口に見立て、松明を勢子たちが頂上めがけ投げ入れます。宙に舞う松明は幻想的ですので、ぜひお越しください。

●日時　8月24日(金)・25日(土) 午後6時～
●場所　都井岬旧観光ホテル前広場
●問い合わせ先
くしま活性化委員会　☎72-0053

EVENT

第35回福島港花火大会

福島港今町海岸で最大10号玉の花火が打ち上げられ迫力満点。志布志湾をバックに色とりどりの花火が夜空を彩ります!

●日時　8月12日(日) 午後8時～ 花火打ち上げ
●会場　福島港今町海岸
●問い合わせ先
くしま活性化委員会　☎72-0053

※今年は、例年と会場が変更になりますので、ご注意ください。

徒然なるままに

随想（ずいそう）

「啐啄同時（そったくどうじ）」

本を読むことで人生が豊かになることを伝えたい

福島小学校の子ども達に、今年の1月から本の読み聞かせのボランティアをしている。PTA新聞に募集していたので手を挙げた。

本の読み聞かせは毎週木曜の授業の始まる前と、昼休みの時間に教室と図書室で行っていたが、5月の1学期から月2回となった。保護者が家事や育児に加え、仕事を持てば余裕がなくなったのだろう。

福島小学校は私の母校でもある。60年余りが過ぎると昔の面影は一変して今は楠の大木と、広い運動場と記念碑位か。隔世の感があり歳月の早さを実感する。

本の読み聞かせは保護者と分担する。本は図書室にもあるが、私は串間市立図書や隣りの志布志市立図書館から借りてくる。私の選ぶ本は人間や動植物、自然への優しさが基本。

6年生には芥川龍之介の「蜘蛛の糸」を選んだ。お釈迦様が罪人の犍陀多（かんだた）を地獄の血の池から蜘蛛の糸を垂らして助けようとする話だ。犍陀多が蜘蛛を踏み殺さなかった善行を知ってのことだ。

読み終わって私は担任に断って四国霊場巡りをするお遍路さんの持つ杖の話をした。あの杖の先についている鈴の役割は何か、と。私に授業をする資格はないのですぐ教えた。あの鈴はお遍路さんが道中で虫を踏み殺さないための合図の鈴だよ、と。

本だけではない。3月には2年生に宮崎市フェニックス自然動物園賞の金賞を受賞した、宮崎市の大淀小2年生の女子児童の作品「おじいちゃんのラクダのウイロウ」を読んだ。4年生と5年生にはベストエッセイの中の童話作家のあまんきみこさんの、「S先生のクラス」を読んだ。O・ヘンリーの名作「賢者の贈り物」を読んだ後、貧しい夫婦がお互い贈ったプレゼントは何か、と聞いて想像力を確かめるのも楽しい。

読み聞かせボランティアを始めてまだ半年、あえてと前置きして述べるなら、私は義務感とか責任感とかは持たない。本を読むことを子ども達に義務づけることはできない。

本の好きな子も嫌いな子もいる。いささか乱暴なようだが、本を読まなくても生きてはいけるし、一冊の本が人生を変える人もいればそうでもない人もいる。私は子ども達の心の中には入ることはできないが、私の読む本が子ども達の心の中に残ればいい、と思う。

私は子ども達の60年以上の先輩である。読み聞かせボランティアとして伝えたいことは、本を読むことで自分を読むことができ、そのことで自分の人生を知り、人を知ることもできる。何よりも人生が豊かになることだけは確かだ。

京都教育大学の学長室に、啐啄同時（そったくどうじ）と書かれた額が飾ってある写真を見た。卵からヒナが孵化する時、内側から突っつくと親鳥が外から卵を突き破ってヒナを出してやる、という意味と解説がついていた。教育の要諦だという。優しさを象徴してもいる言葉だ。

小学校という卵の中からやがて中学、高校と外へ出ようとする子ども達、たくましく力強く生きるために私たち大人は何ができるか。

武田 佐俊（たけだ さとし）(75歳)
1943年3月北九州市小倉生まれ。福島小・中学校卒業。福島高校に合格するも事情により志布志商業学校へ。国労文芸年度賞、総評文学賞、宮崎文学賞などの小説部門で受賞。西本西方の自治会長を努め、妻と二人暮らし。